

学位授与番号：乙 3 1 3 9 号

氏 名：鈴木 俊亮

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 28 年 2 月 24 日

学位論文名：

大腸癌における神経浸潤に対する補助化学療法の効果の検討

主論文名：

Adjuvant chemotherapy for the perineural invasion of colorectal cancer.

（大腸癌における神経浸潤に対する補助化学療法の効果の検討）

学位審査委員長：教授 相羽恵介

学位審査委員：教授 靱山俊彦 教授 颯川晋

論文要旨

論文提出者名

鈴木 俊亮

指導教授名 矢永 勝彦 教授

主論文題名

Adjuvant chemotherapy for the perineural invasion of colorectal cancer

(大腸癌における神経浸潤に対する補助化学療法の効果の検討)

Suzuki T, Suwa K, Ogawa M, Eto K, Kawahara H, Fujita T, Ikegami M, Yanaga K.
J Surg Res. 2015 Nov;199(1):84-9

論文要旨

大腸癌において PNI が予後不良因子であると示唆する報告は散見されてきた。しかし、PNI の明確な定義がされていなかったため、結論には至らなかった。近年、本邦の大腸癌研究会が PNI の病理組織学的定義をした。そこで、本研究は Stage I~III 大腸癌における PNI 予後規定因子としての評価を行い、さらに Stage III 大腸癌における PNI に対する補助化学療法の効果の解析を目的とした。

Stage I~III 大腸癌 178 例について解析したところ、PNI は予後不良因子であり、リンパ管侵襲、静脈侵襲、再発または転移などの他の因子との関連性が認められた。とくに、Stage III 大腸癌 83 例について、PNI 陽性群と PNI 陰性群の 2 群に分けて比較検討したところ、PNI 陽性群が DFS と OS とともに予後不良で、PNI が独立予後不良因子であり、そのリスク比は 2.298 であった。次に、PNI に対する補助化学療法の効果を検討したところ、PNI 陽性群において補助化学療法施行群は非施行群と比較すると DFS と OS とともに予後良好であった。しかし、PNI と補助化学療法の相互作用については、有意差はなかったがリスク比 0.321 であり相互作用の傾向を認めた。

以上より、大腸癌において PNI は予後不良因子であり、とくに Stage III においては PNI が独立予後不良因子となるが、術後補助化学療法により PNI の影響が軽減され予後が改善されることが示唆された。